

武徳殿を建てた棟梁

高野熊次郎

高野熊次郎は、上大浦黒岩の父阿部末蔵、母ミトの三男として生まれた。明治三十八年大浦小学校（四年制）を卒業し、三条の大工、先代熊次郎に弟子入りし、一二年間修業し腕を磨いた。大正七年先代に見込まれ高野家を継ぎ、本名石松から熊次郎を襲名し、数々の建物を手掛けた。

昭和十年、当時札幌で活躍していた丸井デパート社長今井雄七が中心となり、陸軍大将鈴木六を顧問とし、寄附金を募って建てられた、武徳殿（現歴史民俗産業資料館）の棟梁として腕を発揮した。剣道、柔道、弓道場があり、貴賓室までも備えた立派な建物は現在もその面影を残している。その頃大きな商家ではお抱え大工制をとっており、普請をする大工はきまっています、平成十三年四月から市民の寄附金によって保存、管理されている今井邸も腕を振るった建物のひとつである。

熊次郎は大工として名を成しただけでなく、昭和十年から大戦終結まで三条大工職組合長を務め、戦後は公職追放の処分を受けたが二十三年解除されると、昭和四十年まで再び組合長を

務めた。また昭和三十五年後継者養成のため、職業補導所のために三条郷建築協同職業訓練所を設立し所長となった。

晩年は三条を離れ、新潟市の五十嵐浜に移り余生を送り、七九歳で亡くなった。



高野熊次郎
集 落：上大浦